

科目名称	チーム医療概論
授業コード	BA271
英語名称	
学期	2024年度後期
単位	2.0
担当教員	堀 和芳
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	・チーム医療が不可欠となってきた歴史的背景や多職種のチームで医療・福祉の立場から患者・利用者への働きかけの実際を学び、円滑なチーム運営のために看護師が担うべき役割について学び、良好な信頼関係を構築し、リーダーシップを発揮して、チームと一体になって問題解決に当る能力を習得する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	本講義は、保健師実務経験、看護師実務経験、理学療法士実務経験、社会福祉士実務経験、精神福祉士実務経験、介護福祉士実務経験などがある教員がその経験を活かした講義と演習を行う。また臨床工学技士として大学病院、総合病院にて臨床研究、臨床実務経験のある担当教員が行う。
到達目標	この科目は、ディプロマポリシーの「5. 対象者に最善の支援ができるように、保健・医療・福祉システムの中で、人々と協働する能力を有している」に該当する科目であり、以下の到達目標を目指している。 1. 多職種連携に必要なチームマネジメントの知識とスキルがわかる。 2. 多職種の職域が理解でき、その中でチーム内における看護の役割がわかる。 3. 臨床での多職種連携が行われる意味が理解できる。 4. 臨床において臨床工学技士が自ら発揮できる能力の限界とチームによるケアの発展性を自覚できる。 5. 臨床工学技士としてチームの中で自らの役割を自覚し発揮することを学修する
計画・内容	第1回：《4学科合同講義》テーマ：「グループづくり、患者の心理」内容：*オリテーション&【講義】チーム医療論概説、患者の心理について 第2回：《講義と演習》テーマ：「互いを知る 各専門職職の理解」内容：異なる学科の教員の講義を受け、各専門職職の理解する 第3回：《グループワーク》テーマ：「互いを知る 各専門職職の理解」内容：臨床工学、理学、医療福祉学科と看護の合同グループ（6～7人）で、学生同士で、各々の専門性について紹介、各専門職職の理解する 第4回：《グループワーク》テーマ：「互いを知る 各専門職職の理解」内容：臨床工学、理学、医療福祉学科と看護の合同グループ（6～7人）で、学生同士で、各々の専門性について紹介、各専門職職の理解する 第5回：《グループワーク》テーマ：「互いを知る 各専門職職の理解」内容：臨床工学、理学と看護の合同グループ（6～7人）で、学生同士で、各々の専門性について紹介、各専門職職の理解する 第6回 《グループワーク》テーマ：「他職種と協働し事例の課題解決を考える」内容：模擬事例を通して、グループで課題の解決方法を考える 第7回：《グループワーク》テーマ：「他職種と協働し事例の課題解決を考える、医療チームによる患者対応」内容：模擬事例を通して、グループで課題の解決方法を考える。発表にむけて準備する 第8回：《グループワーク》テーマ：「他職種と協働し事例の課題解決を考える、医療チームによる患者対応」内容：模擬事例を通して、グループで課題の解決方法を考える。発表にむけて準備する 第9回：《報告会》テーマ：学びを他者に分かるように報告する。他者の学びを共有する 第10回 「疾病と医療チームとは？疾病と患者心理」血液浄化業務におけるチーム医療（チームにおける臨床工学技士の役割） 第11回「疾病と医療チームとは？疾病と患者心理」集中治療業務におけるチーム医療（チームにおける臨床工学技士の役割） 第12回「疾病と医療チームとは？疾病と患者心理」手術室業務におけるチーム医療（チームにおける臨床工学技士の役割）

計画・内容	第13回「疾病と医療チームとは？疾病と患者心理」内視鏡療業務におけるチーム医療（チームにおける臨床工学技士の役割） 第14回「疾病と医療チームとは？疾病と患者心理」心・血管カテ業務におけるチーム医療（チームにおける臨床工学技士の役割） 第15回「疾病と医療チームとは？疾病と患者心理」在宅医療におけるチーム医療（疾病と患者心理、チームにおける臨床工学技士の役割）
授業の進め方	4学科の合同科目である。 「チーム医療概論」の科目名のように、講義中心ではなく、学生自ら専門職として自覚をもち、チームの一員として実践的に進んでいく科目である。看護師・理学療法士社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、臨床工学技士の名称は知っているものの、実際はよくわからないのが現状ではないだろうか。 まずは、自己紹介から始まり、臨床工学技士について他学科の学生に伝えることが、本授業の第1歩である。そして自分を知ることと他者を知るとは、専門職としての重要であるが、互いの理解からチームは成り立つため、その「専門職としての互いを知る」ことが中心テーマである。第1回～第9回まで他職種協働授業、第9回より臨床工学技士教員が担当する。
能動的な学びの実施	グループワークが中心の科目であり、受講する学生自らが、考えたこと、調べたことを他者へ発信してゆく。 さらに課題については、ディスカッションを行い、全員で解決策を導いてゆく。
授業時間外の学修	自分の専門性を相手に伝えるように自ら工夫して、発表資料を作成すること。 授業の進度に合わせた事前学習をするように。（各回1時間程度） 復習は、講義資料やグループワークで学んだことをまとめるように。（各回1時間程度）
教科書・参考書	特に指定はない。
成績評価方法と基準	最終レポート（70%）、出席回数と毎回のリフレクションカード内容（20%）、チーム内の役割（10%）等から総合的に判断する。
課題等に対するフィードバック	毎回、質問には応じます。 共通した質問などは、PPTを用いて説明する。
オフィスアワー	Campus Squareを参照
留意事項	毎回、教室が異なるので、間違いのないように各自留意すること
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	ZOOMによるオンライン授業を行う  授業中の課題小テスト20%、ZOOMによる期末テスト80%期末試験の成績によって評価するがZOOMでの実施が困難な場合、授業中の課題提出を重視する（50%）